

平成 28 年度 学校評価及び各アンケート分析と考察

県立鏡が丘特別支援学校
学校評価委員会

1. はじめに

今年度の学校評価にかかる各アンケートの分析・考察は、アンケート結果を受けて、各学部・寄宿舎で課題を共有し、必要な項目について説明や改善策の検討を行い、学校評価委員会で課題や職員会議での提案事項、外部への公開内容の確認を行った上でまとめられたものである。

今後は学校評議員への報告、学校評議員による学校評価と助言を加え、学校内で掲示し、保護者や関係者に提示するとともに、学校ホームページで公開する予定である。

2. 教職員自己評価及び保護者アンケートの分析・考察

平成 26 年度まで 28 から 31 項目あった評価項目数を昨年度、20 項目に整理した。また、教職員用と保護者用で評価項目の順序や内容に統一感を持たせるよう整理し、それぞれの視点での評価を比較検討できるようにして、昨年度と同様の項目で実施した。

なお、事務職員や現業職員については、児童生徒の教育に直接関わっていないところでの業務が多いことから、教諭や寄宿舎指導員等とは別にして業務内容に沿った評価項目を設定した。

「◎よくあてはまる」と「○ややあてはまる」を良好な評価（以下、「良好な評価」とする。）として、「△あまりあてはまらない」と「×全くあてはまらない」を検討の必要な評価（以下、「検討が必要な評価」とする）として捉えられる。

(1) 教職員（事務現業を除く教諭・寄宿舎指導員等）と保護者の集計結果の総計の比較

教職員 128 名に自己評価を実施し回収率は 100%、保護者 126 名にアンケートを配布し 63 名が回答、回収率 50.0% (H27 年度 47.6%)。集計結果の総計における各評価が占める割合は、次のとおりである。（ ）内の数値は平成 27 年度結果。

評価	教職員		保護者	
◎よくあてはまる	49.9%(52.0)	良好な評価	57.8%(51.2)	良好な評価
○ややあてはまる	46.0%(35.5)	95.9%(87.5)	31.9%(38.5)	89.7%(89.7)
△あまりあてはまらない	3.5%(4.6)	検討が必要な評価	3.6%(5.9)	検討が必要な評価
×全くあてはまらない	0.1%(0.8)	3.6%(5.4)	0.5%(0.2)	4.1%(6.1)
?わからない	0.5%(1.7)		6.1%(3.9)	

教職員 95.9%、保護者 89.7%が、「良好な評価」だった。また、平成 27 年度と比較して「検討が必要な評価」の割合が減少している。しかし、保護者の「?わからない」が昨年度と比較して増加していることに留意する必要がある。

(2) 大項目（「学校経営」「学習活動」「健康安全」）の比較

「良好な評価」の割合と「?わからない」を次の表で比較した。

()内の数値は平成27年度結果。

大項目	教職員		保護者	
	「良好な評価」	「?わからない」	「良好な評価」	「?わからない」
学校経営	93.2%(91.7)	0.8%(1.3)	92.4%(89.9)	3.7%(3.9)
学習活動	95.5%(96.3)	0.5%(0.6)	94.5%(91.2)	1.6%(4.4)
健康安全	98.0%(96.1)	0.2%(0.6)	80.0%(78.6)	18.0%(15.1)

教職員、保護者とも概ね「良好な評価」。また、保護者は平成27年度と比較して、全ての
大項目で「良好な評価」が増加している。しかし、「健康安全」で教職員と保護者の評価結果
に18ポイントも差があることに留意する必要がある。

なお、具体的評価項目の中で「検討が必要な評価」が20%を超えるものはなかった。

(3) 特筆すべき項目の比較

①昨年度と比較して「検討が必要な評価」の割合が減少している項目について

(概ね5%以上減少している項目を抽出) ()内の数値は平成27年度結果。

No.	評価項目	検討が必要な評価	
		教職員	保護者
6	学校は、施設・設備の改善に努め明るい環 境を整えている。	19.6%(25.0)	7.9%(14.7)

②昨年度と比較して「検討が必要な評価」の割合が増加している項目について

(概ね5%以上増加している項目を抽出) ()内の数値は平成27年度結果。

No.	評価項目	検討が必要な評価	
		教職員	保護者
18	全体として、本校の教育に満足している	—	9.4%(2.9)

③教職員または保護者のどちらかで、「**検討が必要な評価**」の割合が**5%以上ある項目**について。（ ）内の数値は平成 27 年度結果。

No.	評価項目	検討が必要な評価	
		教職員	保護者
5	学校は、保護者が子どもの様子について連絡・相談したことについて適切に対応してくれる。	4.7% (1.7)	6.3% (4.4)
6	学校は、施設・設備の改善に努め明るい環境を整えている。	19.6% (25.0)	7.9% (14.7)
11	児童生徒が、進んで学習活動に取り組めるように、教材や授業の進め方が工夫をしている。	5.5% (4.3)	4.7% (4.4)
12	学校は、将来の進路や職業などについて参考となる情報を提供をしている。	7.8% (6.0)	7.8% (11.8)
18	専門性向上のため主体的に研究・研修に努めている。	5.5% (6.0)	-
18	全体として、本校の教育に満足している。	-	9.4% (2.9)
19	台風やその他の災害などの対応について、児童や保護者に行動マニュアルが知らされている。	-	7.9% (4.4)
20	学校では、保護者や外部の方々と話をする機会を多く持っている	-	9.4% (10.3)

④保護者の「**?わからない**」が多い項目について（**概ね 10%以上ある項目**を抽出）

（ ）内の数値は平成 27 年度結果。

	No.	評価項目	?わからない 保護者
健康 安全	13	給食は、お子さんが食べやすい食形態等が提供されている。	10.9% (13.2)
	14	健康な生活を送るため、保健指導や健康教育が行われている。	9.5% (8.8)
	15	学校は避難訓練や不審者及び交通安全への対応を十分行っている。	15.9% (19.1)
	16	スクールバスの運行が安全に行われている。	35.5% (19.1)

大項目「健康安全」の中の4項目すべてが比較的高い割合を示していた。特に高い割合を示した「スクールバスの運行が安全に行われている。」については、利用していない家庭が多いことを起因とする結果と推察される。しかし、「学校は避難訓練や不審者及び交通安全への対応を十分行っている。」で15.9%が「?わからない」と回答したことに対し、十分な安全対策と説明責任を果たしていなかったことが浮き彫りになっている。

(4) 事務現業職員 15 名を対象に行い、集計結果の総計における各評価が占める割合は、次のとおりである。()内の数値は平成 27 年度結果。

評価	事務現業職員	
◎ よくあてはまる	14.7%(15.7)	良好な評価 76.7%(52.8)
○ ややあてはまる	62.0%(37.1)	
△ あまりあてはまらない	4.3%(2.9)	検討が必要な評価 4.6%(4.7)
× 全くあてはまらない	0.3%(1.8)	
? わからない	18.7%(42.5)	-

具体的評価項目の中、「全職員協力のもと、計画的な清掃活動及び美化活動が適切に実践されている」で、「検討が必要な評価」が 20%を超えた。また、「? わからない」の割合が昨年度と比較して 23.8 ポイント改善したといえ、18.7%と高水準であることから、事務現業職員に対するそれぞれの業務と自己評価の相関をしっかりと周知を図るとともに評価項目の妥当性を検証する必要がある。

3. 児童生徒アンケートの分析・考察

児童生徒アンケートは、口頭や代筆等を含めて回答可能な児童生徒 32 名（小 11、中 11、高 10）に実施した。各評価が占める割合は以下のとおりである。

()内の数値は平成 27 年度結果。

評価	児童生徒	
◎ よくあてはまる	73.4%(71.7)	良好な評価 94.7%(91.9)
○ ややあてはまる	21.3%(20.2)	
△ あまりあてはまらない	2.8%(3.8)	検討が必要な評価 3.3%(5.5)
× 全くあてはまらない	0.5%(1.7)	
? わからない	2.0%(2.7)	-

児童生徒全体的には「良好な評価」が 98.3%と高評価であった。また、昨年度と比較しても 3.2 ポイント「良好な評価」が増加していることを含め、昨年同様に概ね本校の学校生活に満足している様子が伺える。

(1) 特筆すべき評価項目について

① 「検討が必要な評価」が5%を超えた項目

No.	評価項目	検討が必要な評価	
		全児童生徒	各学部の回答者数
13	授業ではパソコンをよく使っている。	21.9%(21.9)	小4名、中2名、高1名
16	先生は、わたしたちの しょう来のことなどについてよく考えてくれる。	12.5%(6.3)	小2名、中1名、高1名
17	総合的な学習の時間は～じゅう実している。	9.4%(0.0)	小3名、中0名、高0名
19	地しんや 火事のときはどうすればよいか、よく知らされている。	9.4%(9.4)	小2名、中0名、高1名

「授業ではパソコンをよく使っている」で7名が「検討が必要な項目」と回答している。本校では、ICT を活用した教材教具の開発や備品整備に努めてきていたが、授業での活用については教師の裁量に任せていた。このことについて、児童生徒の声を真摯に受け止め、全ての教職員が ICT 活用の推進を図れるよう研修体制を見直していきたい。

「先生は、私達の 将来の事等についてよく考えてくれる」で4名が「検討が必要な項目」と回答している。いつでも児童生徒に寄り添いつつ、それぞれのきめ細やかな実態把握に基づく目標を児童生徒と共有し、夢実現に向けて取り組んでいくよう全職員に周知徹底を図っていきたい。

「総合的な学習の時間は～充実している」と「地震や火事の時火事のはどうすればよいか、よく知らされている。」で3名が「検討が必要な項目」と回答している。小学部における「総合的な学習の時間」の内容を検証し改善に努める必要があるのではないかと。また、地震火災等の避難訓練内容や日頃の危機管理について、児童生徒の十分な理解と心構えを備えさせる必要がある。

(2) 要望意見の中で、小学部児童から「学校の玄関や廊下に飾り付けして、にぎやかな学校にした方がいい。」「算数は簡単にしてください。」

中学部生徒から「みんなが笑顔でいられるようにする。」

高等部生徒から「他校ともっと交流したい。」等の意見があった。

まずは、各学部単位で一つ一つの声に応じつつ学習の充実を図れるよう対応を検討したい。

4. まとめ

- (1) 本校職員の自己評価より、「学校は、施設・設備の改善に努め明るい環境を整えている。」について昨年度より数ポイント改善しているが、「検討が必要な項目」19.6%と全20項目の中で突出していることから、改善箇所の内容や優先順位等を全職員で共有しつつ、本庁にも積極的に要望していきたい。また、事務現業職員に対しそれぞれの業務と自己評価の相関をしっかりと周知を図りつつ、評価項目の妥当性を検証していきたい。
- (2) 保護者アンケートからは、「学校は避難訓練や不審者及び交通安全への対応を十分行っている。」で15.9%が「?わからない」、「台風やその他の災害などの対応について、児童や保護者に行動マニュアルが知らされている。」で7.9%が「検討が必要な項目」と回答したことを真摯に受け止め、PTA 役員と連携し、十分な安全対策を構築すると共にしっかりと説明責任を果たしていきたい。
- (3) 児童生徒アンケートから、ICT を積極的に活用した授業づくりに取り組んでいく。また、地震や火災等の日頃の危機管理について児童生徒に伝わる学習内容の見直し、小学部における「総合的な学習の時間」の内容の検証と改善等に丁寧に応えていきたい。

5. 学校評議員の指導助言

第3回学校評議員会において、上記の結果及び学部で話し合われた事項について報告したところ、下記の通り助言があった。

- (1) 学校評価項目やアンケートの集計結果や考察について、細かく丁寧に分析されている。きちんと説明責任が果たせていると思う。児童生徒の実態が訪問教育や医療的ケアの必要な生徒から大学進学を目指す生徒まで、幅広く、また個別の対応をしなくてはならない状況で学校は良く対応して頑張っていると思う。しかし一部の保護者ではあるが、様々な思いを抱くので丁寧な説明をして欲しい。生徒の学校評価項目No.13の「パソコン」は限定的なので、ICT 機器などに範囲を拡大することで評価が変わるのではないだろうか。(設問を検討することも考える。)
- (2) 訪問教育に関する意見については、新しい法律「合理的配慮」の部分などの影響で保護者も考えていると思う。教育と医療は違うので(役割や意義?)保護者に理解してもらうように、より丁寧に対応する。また児童生徒の主治医だけでなく、学校医からの助言をもらいながら対応してもよいのでは。
- (3) 学校評価の健康安全の結果で「?わからない」の多い項目については、給食形態などを確認する機会が少ないので状況が分からないだけかもしれない。懇談会等で給食形態について確認する機会を多く設定することで評価が変わるのではないか。
- (4) 健康安全の部分が理解してもらえていないのは気になる。保護者が一番に気にしていることだと思うので。学校としてはどのように感じているのか?保護者の要求について改善す

るが、そのことで要求水準は高くなることも予想されるが、丁寧に対処してほしい。

- (5) 訪問教育の児童生徒の「アルバム」に関する件については（実際の予算のかけ方が違うことで起こり得ることは理解できるが）親の意識はやはり他の児童生徒と同じように扱ってほしいという親の要望（心情）を配慮して対応することが求められる。またそこには教師の対応力が求められていることだと思う。説明する際に言葉を選ぶことも必要。
- (6) 保護者アンケートの評価項目、No.20「学校では、保護者や外部の方々と話をする機会を多く持っている。」の結果を受けて、話し合いは必要だと思うので、今後も話し合いの機会を多く設置できるように努めてほしい。訪問教育の件について、保護者が思って考えていることは、きっと本人も感じていることだと思うので、できるだけ対応して欲しい。就学支援の流れについては1学期の当初で保護者へ説明することで、誤解せずに進めていくことができる。生徒アンケートのNo.20の交流については、同世代と交流したい気持ちがあると思う。交流の機会が増えることは、将来について選択肢が増え、考える機会となるので、交流の機会を多く設定できるようお願いしたい。提案として、訪問学級児童生徒と通学生とでICT機器やスカイプなどの通信機能を活用し交流などをしてみてはどうか。